

9280

192

横防機密第六七號ノ一ノ一三

昭和二十年二月二十五日

横須賀防備隊戦闘詳報第五九號

昭和二十年二月十六日 浦賀水道ニ於ケル敵艦上機攻撃 第一八〇號願潜特務艇

横須賀防備隊

三月二十日送付

10

目次	頁
一、形勢	一
二、計畫	一
三、經過	一
四、令達報告	一
五、戰果及被害	三
六、功績	三
七、戰訓	四
八、合戰圖	五

(目次終)

1

横須賀防備隊戦闘詳報第五九號

昭和二十年二月十六日 瀬谷水道ニ於ケル敵艦上機攻撃 第一八〇號驅潜特務艇

一 形勢

敵ハ我が要衝硫黄島ニ上陸一方機動部隊ニ依リ本土ニ來襲、飛行場軍事施設ヲ攻撃シ我が航空戦力ノ減殺ヲ企圖シツツアリ

二 計畫

東京湾部隊命令作第八號及機密横領信電令作第三九號ニ依リ警戒中

三 経過

(一) 月日及天候

月日	時刻	天候	風向	風速	氣温	視界	波浪	ウネリ	記
二一六	自一〇三〇至一三八〇	曇	北々東	七米	八度	上空二〇〇〇	六		哨戒中

(二) 任務

東京湾部隊第一哨戒隊（E哨區）

(三) 指揮官及參加艦艇

第一八〇號驅潛等艇

(四) 戰況

月	日	時	刻	記	事
二	上	六	〇	八	三
〇	八	三	〇	第一哨戒隊浦賀基地出港	
〇	九	〇	〇	第一哨戒隊解列	
〇	九	二	〇	E哨區ニ就キ第七濟洲丸ト哨區交代移動哨戒中	
一	一	三	三	敵「E四」五機右一六〇度高度八度一〇〇〇米ニ發見邀撃態勢ヲ執ル可ク	
一	一	三	五	直ニ面舵ヲ令シ十三秒後銃ヲ指向	
一	一	三	五	射撃開始敵四機ハ浦ノ端方回ニ退去	
一	一	三	四	更ニ敵機ハ我ニ掃射ノ上同方回ニ退去セルヲ以テ針路Nトナシ打方ヲ止ム	
一	一	三	三	被弾負傷者アルヲ以テ之ニ應急處置ヲ施シ戦闘航海ニ支障ナキモ手當不充分ナル爲哨區ヲ撤シ處理ノ上哨區ニ就ク豫定ニテ浦賀基地ニ向フ	
一	一	三	〇	浦賀基地入港	

(五) 消耗彈藥

四 令達報告

十三糎機銃彈

特甲彈

三五

普通彈

一〇五

曳痕彈

三五

計一七五發

發日	元時	受日	宛(通報)時	令達報告等	種別
三一六〇八二八	一八〇號驛特艇長	三一六〇八二九	東京灣部隊指揮官	哨區交代ノ爲唯今出港 第一哨戒隊	㊦
一六一一二五〇	一八〇號特艇長	一六一一二五五	東京灣部隊指揮官	敵機ト交戦中負傷者分隊士以下五名戰傷航海ニ支障ナシ整理セバ直チニ出港ノ豫定	㊦
一六一三一〇	東京灣部隊指揮官	一六一三一〇	第一哨戒隊 一〇八號特二二三 驛特、二〇八驛特 山丸	山丸(「E」配備點)驛特二〇八(「C」配備點) 第一哨戒隊ニ編入準備出來次第出撃セヨ	㊦

五 戰果及被害

(イ) 戰果 不明

(ロ) 被害

人員

北澤兵曹長 西室二曹 若瀨上水 小貫一水 小池一水
計五名輕傷

兵器

喇叭一、水中聽音機丁式受聽器一、毀損
十三糎機銃台、八糎波眼望遠鏡台 貫通

船体

機橋窓三、船用海水タンク一、煙突一、貫通
機關 十五瓩發電機排氣管貫通

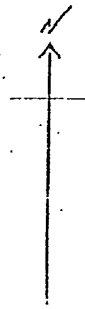
功績

本戦場ニ於テ乗員一同士氣極メテ旺盛勇烈ナル攻撃精神ヲ發揮之ヲ鑒賞
セル功績ハ顯著ナルモノト認ム

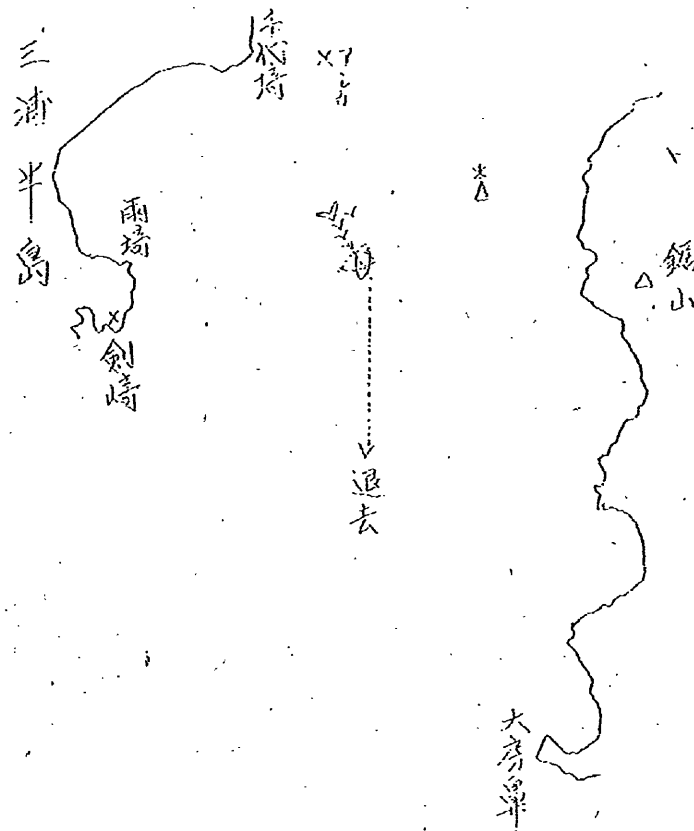
七 戦訓

- (イ) 砲台型ニ於テ多機ノ襲撃ニ對シテハ現機銃ヲ二十五糎トナシ後甲板ニ
十三糎機銃ノ換裝換ヲ要ス
(ロ) 空襲ヲ豫期セバ出來得ル限り山ノアル陸岸ニ避浪火器ヲ有効ニ發揮ニ
勉ムルヲ可ト認ム

(終)



合戦圖（海國島入流自天度）
 ✓ 發見態勢
 ✓ 合戦態勢



0333

196

横防機密第六七號ノ一ノ一四

昭和二十年二月二十五日

三月二十日送付

5
10

横 須 賀 防 備 隊 戦 闘 詳 報 第 六 〇 號

昭和二十年二月十六日 浦賀水道ニ於ケル敵艦上機攻撃 敵設備初 島

横 須 賀 防 備 隊

	目	次	頁
一、形勢	1	1	1
二、計畫	1	1	1
三、經過	1	1	1
四、令達報告	1	1	3
五、戰果及被害	1	1	4
六、功績	1	1	5
七、戰訓	1	1	5
八、消耗兵器調査表	1	1	6

(目次終)

廣須賀防備隊戰闘詳報第六〇號

昭和二十年二月十六日 浦賀水道ニ於ケル敵艦上機攻撃 敷設艇、初 島

一敵ハ我ヲ砲撃島ニ上陸シ一方機動部隊ニ依リ本土ニ來襲我ガ航空戦力ノ
潰殺ヲ企圖シ「マリアナ」基地ヨリハB29ニ依ル本土爆撃ヲ益々強化シ
ツツアリ

三 計 画
機密情報電信令作第三二九號通

三 經 緯

十六日〇五三〇主機械即時待機完成、艇内哨戒第二配備トナス

〇七一五空襲警報發令對空戰闘配置ニ就ク

〇七三一河氣水道上空北上スル敵小型機約二〇機ニ對シ陸上火砲及艦

ト協力攻撃セルモ戰果不明

〇七三二射方待ツ

〇七四一島ヶ橋上空ノ敵數機ニ對シ射方始メタルモ戰果不明

〇七四三射方止ム〇八〇〇「湊沖ニ疎開セヨ」ノ命ニ依リ疎開用意ヲナ

ス

○八〇五味方機上空ニ飛行セルヲ以テ目標ニ注意シツツ警戒ス

○八一八出港用意(八二〇)疎開鋪地ニ向ケ浦賀發

○九三九觀音埼燈台ノ一二七度三六〇〇ニ於テ左一〇〇度ヨリ低空ニテ

南下(灣口)中ノ敵機十六機ヲ認ム直チニ取舵轉舵三〇〇(附近ヨリ全

火砲ヲ以テ猛射ヲ始ム

○八四〇左後方六〇(附近ニ一機撃墜同時ニ他ノ一機ニ火焰ヲ吐カシメ

タリ此ノ機ハ火焰ニ包マレ海嶺島附近ニ墜落セシム

○八四二他ノ後續機ハ戰意ヲ失ヒ銃撃態形ヲ執ラズ灣口ニ退去セントス

ルヲ以テ益々猛烈ナル銃火ヲ浴セタルモ戰果不明(八四三打方止メヲ令

ス○九二二漆沖ニ假泊

一一三一海峽上空ヨリ湊上空ニ向フ敵機ヲ射撃ス

一一三六浦賀水道低空南下ノ敵機ヲ射撃ス其ニ命中彈ヲ與ヘタルモ何

レモ戰果不明

戰機敵機撃墜圖別紙ノ通

司令達報告

日	時	宛	時	令	達	報	告	類
二一四一五五五	二一四一五五五	宛(通報)	令	機密横領信電令作第三二九號	手			手
横領長官	二一四一五五五	二一四一五五五	令	一諸情報ヲ綜合スルニ敵機動部隊ハ數日前襲據地ヲ出撃スルコト略確實ニシテ十五、十六日以後本土空襲ノ算大ナリ	機			機
二一五	二一五	二一五	令	二十五日〇五三〇以後第二警戒配備甲トナセ	機			機
司	令	各	二一五	即時待機トナセ	機			機
二一五	二一五	二一五	令	機密中管區警戒警報第一種	機			機
横領	令	各	二一五	第一警戒配備トナセ一三二六	機			機
二一五	二一五	二一五	令	横領中管區警戒警報解除第二配備甲トナセ	機			機
司	令	各	二一五	即時待機ヲ解ク	機			機
横領	令	各	二一五	横領全管區警戒警報第一種第一警戒配備トナセ	機			機

五 戦果及被害

(一) 戦果

撃墜確実二機

初	精	初	初	防	司	司	司	司
一七	一七	〃	〃	戦	〃	〃	〃	一六
局	領	島	島	司	令	令	令	令
東京湾B指揮官	一般	東京湾B指揮官	東京湾部隊指揮官	各	初島こうせい丸 掃討十二十三	各	各	各
二一七一七二〇	二一七一七二〇	二一六一一六一八	二一六一〇八二〇	二一六一〇八一〇	二一六一〇八二〇	二一六一〇七二五	二一六一〇七二〇	二一六一〇七二〇
異状ナシ	横領管區空襲警報解除	初島機密第一六一八〇番電 戦術概報二機撃墜確実人員兵器異状ナシ	浜沖ニ疎萌ス	敵味方飛行機ノ識別ニ注意セヨ	浜沖ニ疎萌セヨ	敵味方誤ノ誤ルナ	距離ニ注意シ無感弾ヲ打ツナ	至急出勤準備ヲナシ對空戦闘用意ヲナシ置ケ 本日ノ來襲ハ小型機ナリ
〃	〃	線 無	〃	〃	〃	〃	〃	手

(二)被害

ナシ

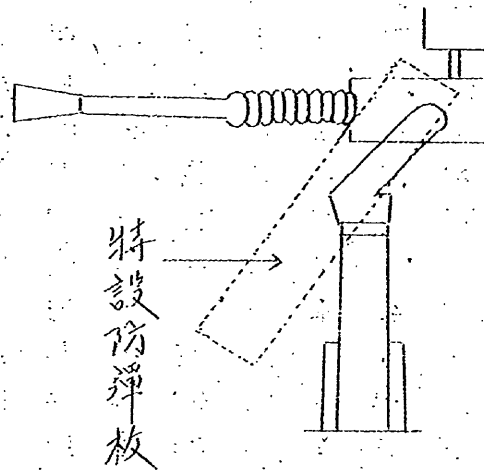
六 功 績

戦闘僅カ二分時ニ撃墜確實ニ機ノ戦果ヲ擧ゲ得タル功績ハ顯著ナルモノト認ム

七 戦 訓

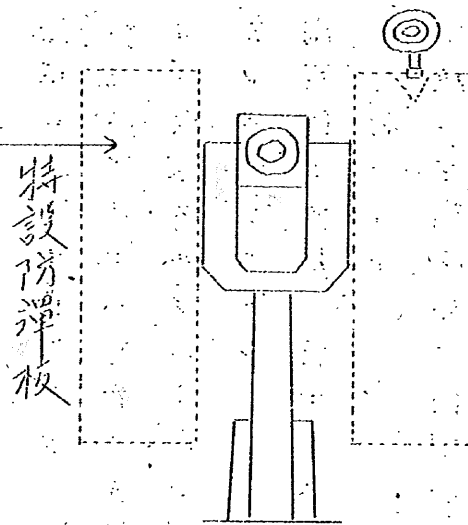
- (一) 二五耗機銃射手ハ最近メ若年ニシテ心身共ニ發育過程ニアル有章兵ヨリ寧ロ体力、膂力共ニ成熟セル無章兵(下士官)ヲ充ツルヲ可ト認ム
- (二) 射撃開始ノ時機ハ火器少ナキ小艦艇ニアリテハ絶対ニ先制攻撃ヲ必要トス之ガ爲目測二五(一)米附近ヨリ射撃スルヲ可ト認ム射距離ニ對スル注意過グル時ハ瞬時ニシテ機先ヲ制セラルベシ
- (三) 敵味方識別ニ關シ本艇ニテハ二米測巨儀ヲ使用シ數千米ニテ識別シ得タリ距離ヲモ同時ニ知り得タルヲ以テ有利ナリキ
- (四) 防弾ニ關シ本艇ニテハ二五耗單裝機銃ニ左圖ノ如ク防弾板ヲ施セリ射手ヲシテ多少ナリトモ安堵セシムルハ彈丸ノ命中率ヲ増スモノト思考ス

側面圖



左

正面圖



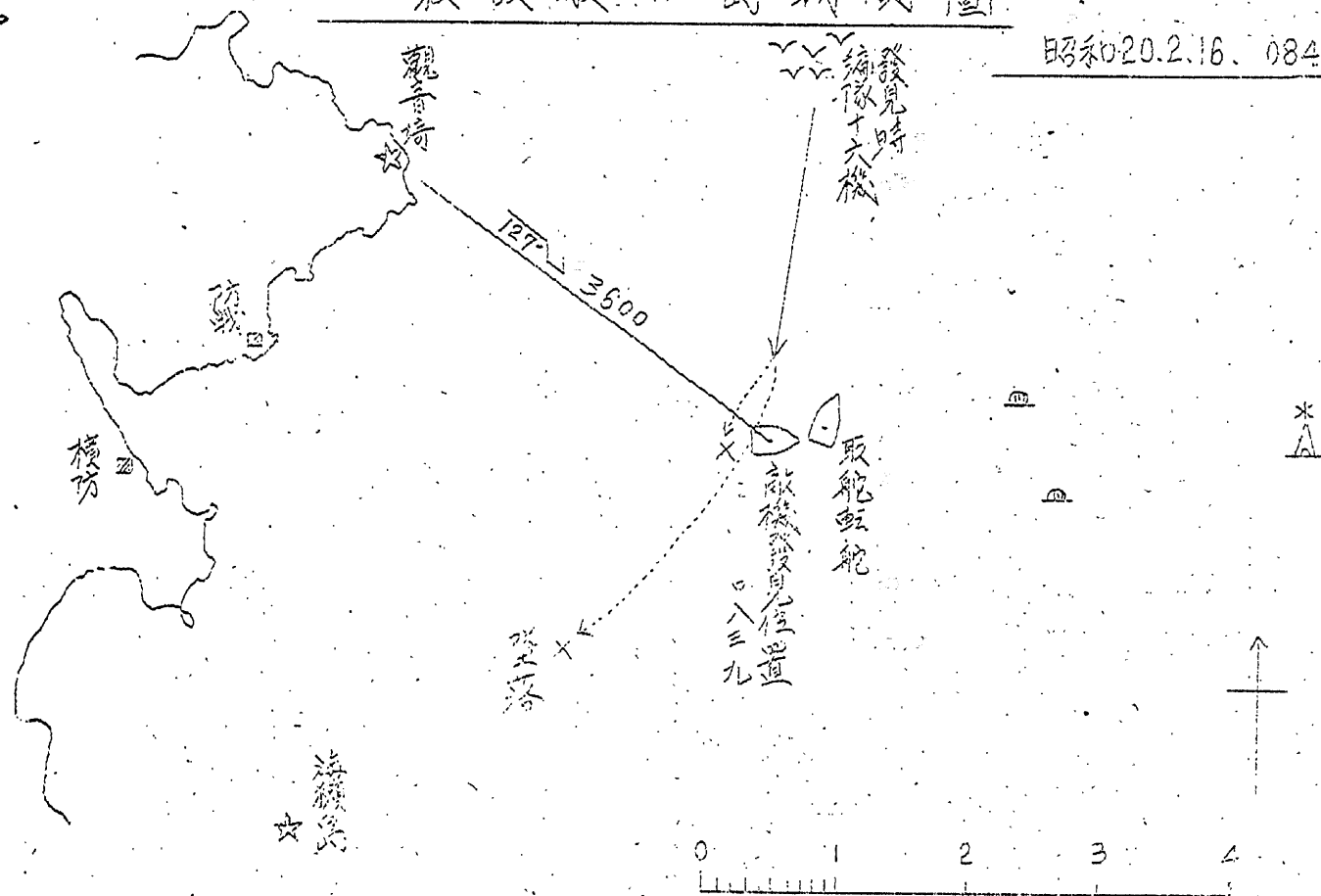
八消耗兵器調査表

攻撃日	砲類	消耗量	攻撃回数	事
二月十六日	八類高角砲彈	一二	五	
二月十七日	二十五種機銃彈	五〇〇	同	
ナ	シ			

(終)

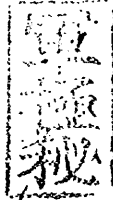
戰島初艇設敷圖

昭和20.2.16. 0840



0342

201



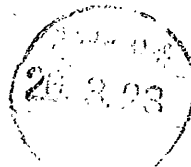
海軍省功績調査課長 殿

横防機密第六七號ノ一ノ一五

昭和二十年二月二十五日

三月二十日 送付

5
1.0



横 須 賀 防 備 隊 戦 闘 詳 報 第 六 一 號

昭和二十年二月十六日
八丈島東方海面ニ於
ケル敵艦上機攻撃
特設監視艇 安 波 丸

横 須 賀 防 備 隊

目次	頁
一、形勢	一
二、計畫	一
三、經過	一
四、令達報告	二
五、戰果及被害	三
六、功績	三
七、戰訓	四
八、戰死者名簿	四

(目次終)

横須賀防備隊戦闘詳報 第六一號

昭和二十年二月十六日

八丈島東方海面ニ於
ケル敵艦上機攻撃

特設監視艇 安波 井

形勢

敵ハ我が要衝硫黄島ニ上陸シ一方機動部隊ニ依リ本土ニ來襲我が航空戦
力ノ減殺ヲ企圖シ「マリヤナ」基地ヨリノ敵B29ノ來襲又次第ニ活潑化
シツツアリ

二 計畫

東京灣部隊機密第(一)八四〇二番電ニ依リ昭和二十年二月九日(八〇〇
浦賀出撃擔任指令海面(第二哨戒線)ニ於ケル所定ノ移動監視哨戒任務
ニ從事中

三 經過

東京灣部隊機密第(一)八四〇二番電ニ依リ當隊擔任指令海面(第二哨戒
線)ニ於ケル對空(對潛)監視哨戒ノ爲昭和二十年二月九日(八〇〇)浦
賀出撃後專ラ哨區ニ於テ移動監視戒ニ從事中同月十六日(八〇〇)敵艦上機

司令達報告

(三機) 野島角一(一) 波一二八渾ノ地點(進行方向南)ニ發見セルヲ以テ直ニ所定ノ緊急通信實施スルト共ニ全員戦闘部署ニ在リテ一層警戒ヲ嚴ニチシツツアル處更ニ一二一五敵機ノ來襲ヲ受ケ之ト交戦中ノ情報通信アリタル仲爾後全ク通信連絡ハ杜絶セリ

依テ當隊配屬特設監視隊第二編重丸第三魁丸監視哨戒傍ラ現場ニ派シ該附近海面ヲ全力ヲ舉ゲテ同月二十三日〇八〇〇迄搜索ヲ續行セルモ何物モ發見スルニ至ラズ

當時直機動部隊ハ本土南方至近海面ニ出現シ而モ本土ニ對シ來襲熾烈ヲ極メ殊ニ同艇ノ位置ハ敵機ノ侵入(脱去)路ニシテ敵機ニ依ル銃撃ヲ受ケ沈没全員(艇長以下十八名)遂ニ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲタルモノト認ム

日	時	令	報	告	等	類別
三八	一四〇二	三八	一四一五	第二特設監視隊ハ明九日〇八〇〇浦賀港第二哨		

3

六 功 績

敵艦上機ヲ發見報告スル等監視艦本來ノ任務ヲ十二分ニ發揮シ今回敵機動部隊來襲ニ際シ優勢ナル敵艦上機ト交戦士氣極メテ旺盛最後迄敢闘全員挺

五 戦果及被害

(イ) 戦 果 一 不 明

(ロ) 被 害 一 沈 没

東京湾部隊指揮官	第一特設監視艦隊 第二特設監視艦隊	戒線ニ就ケ 第一特設監視艦隊ハ右下交代途中對潛掃蕩ヲ實施シツ ツ浦賀ニ歸投スベシ	線 無
安 波 丸 二一六一〇八〇三	東京湾B指揮官 二一六一〇八〇三	敵艦上機三機野島崎ノ一一〇度二二八度進行方向南	〃
安 波 丸 二一六一〇八〇三	東京湾B指揮官 二一六一〇八〇三	我交戦中	線 無
東京湾部隊指揮官 二一六一〇八〇三	第一特設監視艦隊 第二特設監視艦隊 第三特設監視艦隊	第一特設監視艦隊(二隻)ハ二十日〇八〇〇浦賀發第 二特設監視艦隊ハ右下交代途中對潛掃蕩ヲ實施シツ ツ浦賀ニ歸投スベシ	線 無

七 戦 訓

ト運命ヲ共ニシ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲタル功績ハ顯著ナルモノト認ム

(一) 今次敵機來襲ニ依ル被害ヲ徴スルニ敵機ハ艦橋ヲ攻撃目標トシテ掃射セ
ルヲ以テ被害極メテ大ナリ速ニ艦橋周囲ヲ鋼鉄ニ依ル防弾壁ヲ装備ノ要
アリ

(二) 當隊ニ於ケル特設監視艇(補助監視船)ニ在リテハ指令海面ニ於ケル監
視哨^戒竝ニ作戦急速任務ノ爲海洋遠ク進出シ或ハ作戦地域ニ行動セル關係
上現有搭載兵器ハ極メテ劣弱ニシテ而モ急迫セル現勢下ニ於テ自衛上恰
載兵器強化ハ絶対必要ニシテ之ガ緊急對策ノ要ナルモノト認ム

ハ戦死者名簿

戦死年月日	官 等 級	氏 名	戦死年月日	等 級	氏 名
二〇一六	海軍少尉	藤 隆 三	二〇一六	一 曹	田 村 武四郎
〃	上 曹	齋 藤 新	〃	二 曹	秋 元 司
〃	曹 佐	藤 要	〃	水 長	阿 部 佐太郎

二〇一三六	上	水	大	貫	正	夫
上	水	渡	邊	平	一	
上	水	佐々木	弘			
上	水	横山	直太郎			
上	水	根本	忠太郎			
上	水	志村	護	扁		
二〇一三六	一	水	鈴	木	政	吉
一	機	莊	司	亘		
一	機	磯	貝	嶋		
船	長	鈴	木	邦之助		
機	長	酒	井	一	美	
操	機	手	後	藤	年	春

(終)

0349

205

海軍省
防務課
昭和二十年二月二十五日

防務課第六七號ノ一ノ一六

昭和二十年二月二十五日

三月二十日送付

5
10

横須賀防備隊戦闘詳報第六二號

昭和二十年二月十六日 八丈島東方海面對空戦闘 特設監視艇 第二長周丸

横須賀防備隊



	目次	頁
一、形勢	1	1
二、任務	1	1
三、經過	1	1
四、令達報告	1	3
五、戰果及被害	1	3
六、戰死者名簿	1	3
七、合戰圖 不明		
八、戰訓	1	4

(目次終)

横須賀防備隊

戰術

第六十三號

昭和二十年二月十六日

八支隊東方海面防空戰術

特設監視隊

第二長瀬丸

一、形勢

敵ハ我ガ要衝嵯黄島ニ上陸ヲ强行シ一方發動部隊ニ依リ本土ヲ空襲シ我ガ航空戦力ノ減殺ヲ企圖セリ

二、任務

東京灣部隊機密第〇八一四〇二番電ニ依リ昭和二十年二月九日浦賀出撃指令擔任海面（第二哨戒線）ニ於ケル所定ノ移動監視哨戒任務ニ從事中

三、經過

東京灣部隊機密第〇八一四〇二番電ニ依リ昭和二十年二月九日〇八〇〇浦賀出撃指令海面（横須賀第二哨戒線）ニ於ケル所定ノ監視哨戒ニ從事中昭和二十年二月十六日〇八一〇北緯三三度三〇分東經一四一度二五分地點附近ニ於テ敵機ヲ發見セルヲ以テ直ニ機ヲ逸セズ緊急通信ヲ發スルト共ニ之ト全力ヲ舉ゲテ交戦中爾後全ク通信連絡ハ絶シ消息不明ニ

四、令達報告

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

其 戦果及被害
 (1) 戦果 不明
 (2) 被害 沈没
 六 戦死者名簿

戦死年月日	官(職)名氏	名	戦死年月日	官(職)名氏	名
三〇上上六	兵曹長 田口正吉	三〇上上六	水 高橋 勇		
"	一 曹内 田松次郎	"	一 水 神田貞助		
"	一 機曹 石塚正二郎	"	一 機 蛸谷利巳		
"	二 曹北 爪義明	"	二 水 庄司長右衛門		
"	上 水 高橋 春雄	"	船 長 小國 松之丞		
"	上 水 篠子 辰雄	"	甲板長 井上 長太郎		
"	上 水 篠昌 信一	"	甲板員 佐々木 松雄		
"	上 水 篠山 博幸	"	操機手 石森 久雄		
"	一 水 田中 佐七	"	操機手 金澤 郁重		

合戦圖 不明

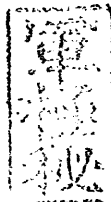
ハ戦訓

- (1) 狀況ヨリ見ルニ攻撃點ハ艦橋ニシテ之等ノ人員ノ被害少ナカラズ速ニ艦橋竝ニ機銃座、見張所ニ對スル防弾簍ノ新設又ハ強化ノ要アリ
- (2) 左記理由ニ依リ急速機銃増備ノ要アリト認ム
- (1) 戦局ノ推移ニ依ル本土近海敵機動部隊ニ依ル空襲激化ヲ豫想セララルヲ以テ哨戒艦隊ノ對空火器ハ自衛上ヨリシテモ絶對必要ニシテ且之ニヨリ本土攻撃ヲ相當阻止シ得
- (2) 機銃一門ノミノ柱ニテハ之方故障礙起ラバ無力トナリ敵機ノ意ノ儘攻撃サルヲ以テ二門以上裝備ノ要アリ

(終)

0355

208



機防機密第六七號ノ一ノ一七

昭和二十年二月二十五日

三月二十日送付

5
10

横須賀防備隊戦闘詳報第六三號

昭和二十年二月十六日

八丈島東方海面
敵艦上機攻撃

特設監視艇 第五盛秋丸

横須賀防備隊

(目次終)

横須賀防備隊戦闘詳報第六三號

昭和二十年二月十六日 八丈島東方海面敵艦上機攻撃 特設監視隊 第五盛秋丸

一 形勢

敵ハ我が要衝硫黄島上陸ト共ニ機動部隊ニ依ル本土空襲ヲ行ヒ我が航空兵力ノ激殺ヲ企圖シ一方「マリヤナ」基地ヨリ敵B29ノ攻撃ヲ第ニ活潑化シツツアリ

二 任務

東京灣部隊機密第〇八一四〇二番電ニ依リ昭和二十年二月九日〇八〇〇浦賀出撃指令擔任海軍（第二哨戒線）ニ於ケル所定ノ移動監視哨戒任務

三 從事中

三 經過

當隊配屬特設監視隊第五盛秋丸ハ東京灣部隊機密第〇八一四〇二番電ニ依リ第二哨戒線（後線）ニ於ケル監視哨戒ノ爲昭和二十年一月九日〇八〇〇浦賀出撃指令擔任海軍ニ於テ尋ラ移動哨戒ニ從事中ノ處十六日〇八一〇北緯三三度二〇分東經一四〇度一五分ノ地點ニ於テ敵戦闘機（三機）北

上スルヲ認メ直ニ全員或兩配置ニ就キ邀撃態勢ニ在リシニ敵ハ變針低空ニテ同船ニ對シ機銃掃射ヲ加ヘ來レルヲ以テ捨敵兵器（十三耗、七、七耗機銃各一基）ノ全力ヲ擧ゲ交戦シ第一回ハ完全ニ之ヲ擊退セルモ第二回目ノ戰鬪ニ於テ同船裝備ノ無線電信機及七、七耗機銃ハ被彈ヲ蒙リ之ガ使用不能ニ陥リタリ然ルニ爾後敵ハ執拗ニモ二機乃至三機ニテ反覆來襲シ銃撃ヲ加ヘ一彈ハ船体後部ニ命中艇後部三分ノ一ヲ破壊セリ全員ハ協力一致防水ニ努メタルモ艇ハ漸次後部ヨリ傾斜沈没ニ傾セリ斯クシテ乗員ハ全ク戰鬪力ヲ失シタルモ機密圖書ノ萬全ヲ期センガ爲直ニ該圖書ヲ一括應急袋（沈鍾附）格納シ海中ニ處分セリ而シテ（八二〇）折柄特設監視艇第二天幸丸遭難現場ニ來着セルヲ以テ遭難者十二名ハ同艇ニ收容セラレ（八二五）第五盛秋丸ハ遂ニ沈没スルニ至レリ尚行方不明（六名）一者ニ對シ附近海面ヲ搜索セルモ何物モ發見スルニ至ラズ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲタルモノト認メラル、本戰鬪ニ於ケル行方不明六名重輕傷者八名

四合達報告

發日	元時	受日	宛(通報)時	令達報告等	種別
三八一四〇二		三八一四二〇	第一特設監視隊 第二特設監視隊	第二特設監視隊ハ明九日〇八〇浦賀發第二哨戒線ニ就ケ 第一特設監視隊ハ右ト交代途中對潛掃蕩ヲ實施シツツ浦賀ニ歸投スベシ	無線
東京灣部隊指揮官		東京灣部隊指揮官	第二特設監視隊	敵機ノ攻撃ヲ受ケタルモ人員兵器異狀ナシ敵機南方ニ避退其ノ後嚴戒中消耗彈藥調査中 第五盛秋丸ハ攻撃ニヨリ沈没目下判明セルモノ次ノ如シ生存者十二名重輕傷者六名本艇直ニ浦賀ニ向フ豫定	"
一六〇〇九三〇		一六〇一〇四〇	東京灣部隊指揮官	敵機ノ攻撃ヲ受ケタルモ人員兵器異狀ナシ敵機南方ニ避退其ノ後嚴戒中消耗彈藥調査中 第五盛秋丸ハ攻撃ニヨリ沈没目下判明セルモノ次ノ如シ生存者十二名重輕傷者六名本艇直ニ浦賀ニ向フ豫定	"
第二天幸丸		第二天幸丸	東京灣部隊指揮官	敵機ノ攻撃ヲ受ケタルモ人員兵器異狀ナシ敵機南方ニ避退其ノ後嚴戒中消耗彈藥調査中 第五盛秋丸ハ攻撃ニヨリ沈没目下判明セルモノ次ノ如シ生存者十二名重輕傷者六名本艇直ニ浦賀ニ向フ豫定	"
一六一一〇三〇		一六一一一〇五〇	東京灣部隊指揮官	敵機ノ攻撃ヲ受ケタルモ人員兵器異狀ナシ敵機南方ニ避退其ノ後嚴戒中消耗彈藥調査中 第五盛秋丸ハ攻撃ニヨリ沈没目下判明セルモノ次ノ如シ生存者十二名重輕傷者六名本艇直ニ浦賀ニ向フ豫定	"
第二天幸丸		第二天幸丸	東京灣部隊指揮官	敵機ノ攻撃ヲ受ケタルモ人員兵器異狀ナシ敵機南方ニ避退其ノ後嚴戒中消耗彈藥調査中 第五盛秋丸ハ攻撃ニヨリ沈没目下判明セルモノ次ノ如シ生存者十二名重輕傷者六名本艇直ニ浦賀ニ向フ豫定	"

戰果及被害

(イ) 戰果 不明
(ロ) 被害 沈没

七 戰 訓

(一) 今次敵機來襲ニ依ル被害ヲ徴スルニ當隊ニ於ケル特設監視艇（補助監視船）ニ對シテハ敵機來襲時ハ極メテ低空ヨリ艦橋ヲ攻撃目標トナシ掃射セラレタルヲ以テ被害極メテ大ナリ速ニ艦橋周圍ニハ防彈鐵ヲ裝備スルノ要アルモノト認ム

(二) 當隊ニ於ケル特設監視艇（補助監視船）ニ在リテハ指令海面ニ於ケル監視哨戒並ニ作戰急速任務ノ爲海洋遠ク進出シ或ハ作戰地域ニ行動セル關係上現有搭載兵器ハ弱メテ劣弱ニシテ而モ急迫セル現戰態下ニ於テ自衛上搭載兵器強化ハ絕對ニ必要ニシテ之ガ緊急對策ノ要アルモノト認ム

（終）

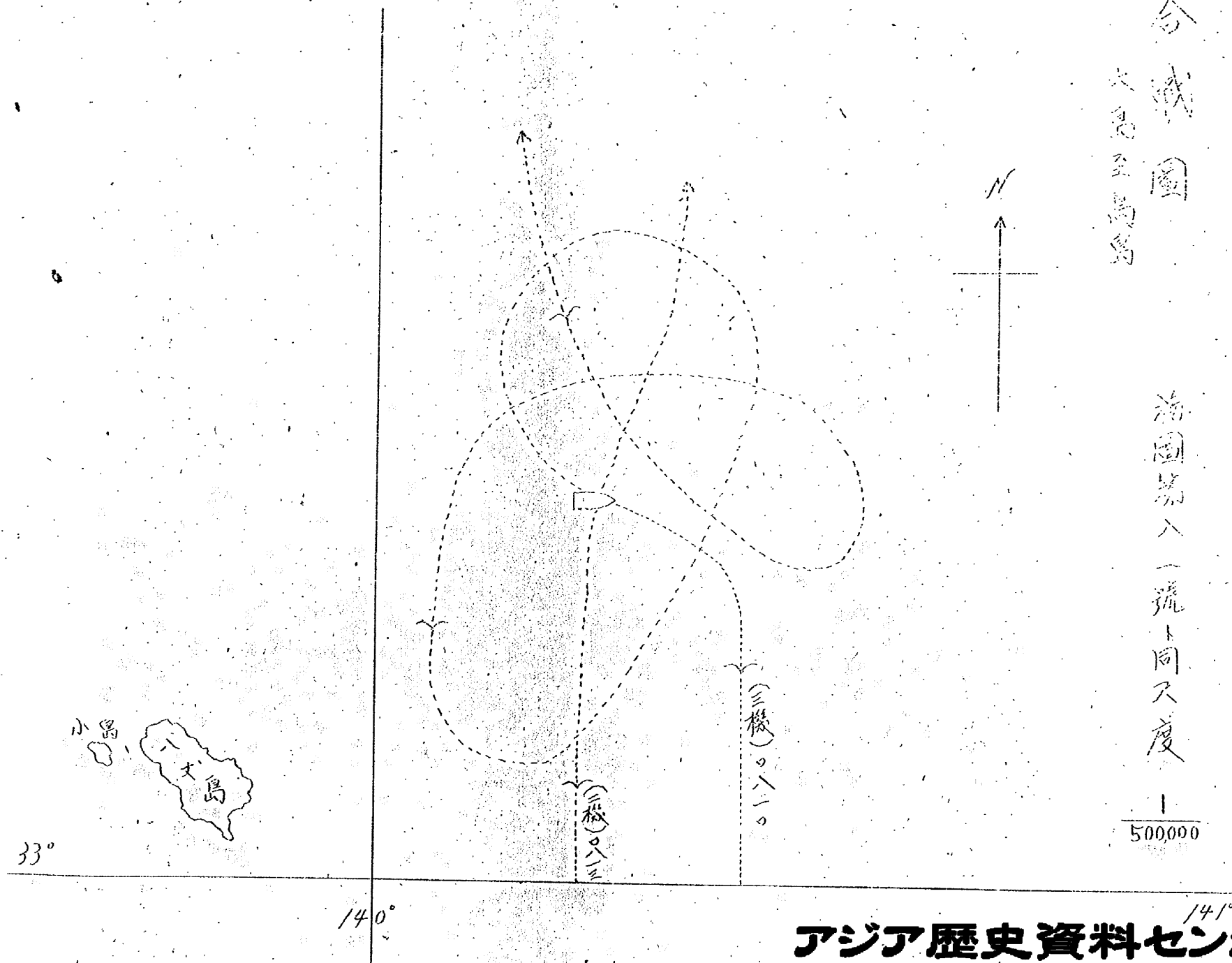
Top

合戦圖

大島至島島

海國第一一號ト同ス度

500,000



2980

213

横防機密第六七號ノ一ノ一八

昭和二十年二月二十五日

横須賀防備隊戦闘詳報第六四號

昭和二十年二月十六日

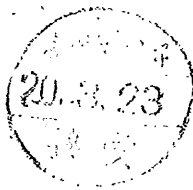
八丈島東方海面
敵艦上機攻撃

特設監視艇 第二天幸丸

横須賀防備隊

5
10

三月二十日送付



一、形勢	一
二、任務	一
三、經過	一
四、令達報告	三
五、戰果及被害	四
六、戰訓	四
七、合戰圖	六

(目次終)

鑑須賀原部隊戦闘詳報第六四號

昭和二十年二月十六日

八丈島東方海面
敵艦上機攻撃

特詳監視隊 第二天幸丸

一 形勢

敵ハ我ガ要衝硫黄島上陸ト共ニ機動部隊ニ依ル本土空襲ヲ行ヒ我ガ航空
兵力ノ減殺ヲ企圖シ一方「マリヤナ」基地ヨリ敵B29ノ攻撃次第ニ活潑
化シツソアリ

二 任務

東京海軍部隊機密第〇八一四〇二番電ニ依リ昭和二十年二月九日〇八〇〇
浦賀出張指令擔任海面（第二哨戒線）ニ於ケル所定ノ移動監視哨戒任務ニ
従事中

三 経過

當隊配屬特設監視隊第二天幸丸ハ東京海軍部隊機密第〇八一四〇二番電ニ
依リ第二哨戒線（増強）ニ於ケル對空（對潜）監視哨戒任務ノ爲昭和二十
年二月九日（八〇〇）浦賀出張指令擔任海面ニ在リテ所定ノ監視移動哨

戒ニ從事中同年二月十六日當日ハ天候悪シク視界良好ナラズ〇八〇〇北緯三三度一〇分東經一四〇度一〇分ノ地點ニ於テ突如雲中ヨリ（距離約三千米）急降下シ南西ニ進行セル敵機（艦戰四）發見シ直ニ戰鬪配置ニ就キ警戒中更ニ斷續的ニ敵機ト思慮セラルル爆音雲上ヨリ聴取セルヲ以テ各員一層對空見張警戒ヲ強化邀撃態勢ニ在リシ處〇八一〇敵機（約三〇機）編隊南方ヨリ北上セルヲ認メタリ而シテ其ノ五機ハ同縦ニ來襲セリ距離一二〇〇米高度四〇〇米ノ敵機ニ對シ機ヲ逸セズ現有搭載兵給（十三科七、七科機銃各一基）ヲ以テ全力ヲ擧ゲ勇戰奮闘交戦シ之ヲ完全ニ撃退セリ、更ニ敵機（一機）來襲セルヲ以テ集中銃火ヲ浴セシニ命中彈ヲ發ハ（機縦席附近ヨリ火焰ヲ認ム）タルモノノ如ク同機ハ南方ニ遁走間モヲク雲中ニ没シタルモ約五〇〇〇米ノ位置上空ニ落下傘使用降下セルヲ確認一機ハ確實ニ撃墜セリ以テ監視哨戒ヲ續行中視界漸次良好トナリ〇八二〇〇八〇〇米附近ニ僚機第五盛秋丸ノ敵襲ニ依リ沈没ニ頻シツツアルヲ認メ直ニ遭難現場ニ急行セントスルニ敵ハ執拗ニモ更ニ二機ヲ以テ攻撃シ來リタルモ之ヲ撃退シ乗員ノ救助ニ一致協力生存者十二名

四 令達報告

ヲ收容セリ第五盛秋丸ハ〇八二五遂ニ沈没スルニ至レリ依テ第五盛秋丸
行方不明者(六名)ニ對シ現場附近ヲ隈ナク〇九三〇迄搜索サルモ何物
モ發見スルニ至ラズ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲタルモノト認ム

日	時	宛(通報)	令達	報告	種別
二八一四〇二	二八一四二〇	第一特設監視艇隊	第一特設監視艇隊ハ明九日〇八〇〇浦賀發第二哨	線	無
東京灣部隊指揮官	第二特設監視艇隊	シツツ浦賀ニ歸投スベシ	洲ノ埼ノ一三五度敵艦上機數機見ユ	敵艦上機三〇機見ユ東徑二四〇度一〇分北緯三三度	敵艦上機ト交戦中
二一六一〇七〇五	二一六一〇七二五	東京灣部隊指揮官	敵艦上機ト交戦中	敵艦上機ト交戦中	敵艦上機ト交戦中
二一六一〇八〇〇	二一六一〇八三〇	東京灣部隊指揮官	敵艦上機ト交戦中	敵艦上機ト交戦中	敵艦上機ト交戦中
二一六一〇九三〇	二一六一〇九六〇	東京灣部隊指揮官	敵艦上機ト交戦中	敵艦上機ト交戦中	敵艦上機ト交戦中
二一六一〇九三〇	二一六一〇九六〇	東京灣部隊指揮官	敵艦上機ト交戦中	敵艦上機ト交戦中	敵艦上機ト交戦中

第二十六号
第二号

東京海上保安部
第二特設監視隊

改定ニ依リ沈没目下判明セルモノ次ノ如シ生存者十
二名重傷者六名本艇直ニ難免ニ向フ豫定
一判明セル戦果撃墜確實一機落下傘ニテ一名降下ス
一本機盛秋丸生存者收容浦賀ニ向フ

線 無

戦果及被害

戦果：敵機撃墜一機

被害：一ナシ

六 戦 況 調

(一) 今次激戦來襲ニ依ル被害ヲ徴スルニ當隊ニ於ケル特監視艇(補助監視

船)ニ對シテハ激戦來襲時ハ極メテ低空ヨリ艦橋ヲ攻撃目標トナシ掃

射セラレタルヲ以テ被害極メテ大ナリ艦橋周圍ニハ速ニ防弾板ヲ整備

スルノ要アルモノト認ム

(二) 當隊ニ於ケル特監視艇(補助監視船)ニ在リテハ指令海面ニ於ケル監

視哨戒並ニ作戦急速任務ノ爲海洋遠ク進出シ或ハ作戦地域ニ行動セル

關係上現有搭載兵器ハ極メテ劣弱ニシテ而モ急迫セル戦況勢下ニ於テ

8980

5

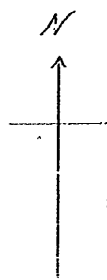
△ 自衛上搭載兵器強化ハ絶対必要ニシテ之ガ緊急対策ノ要アルモノト認

(終)

140°

141°

33°



六、合戦圖
大島至島島
(海圖第六一巻と同尺度)

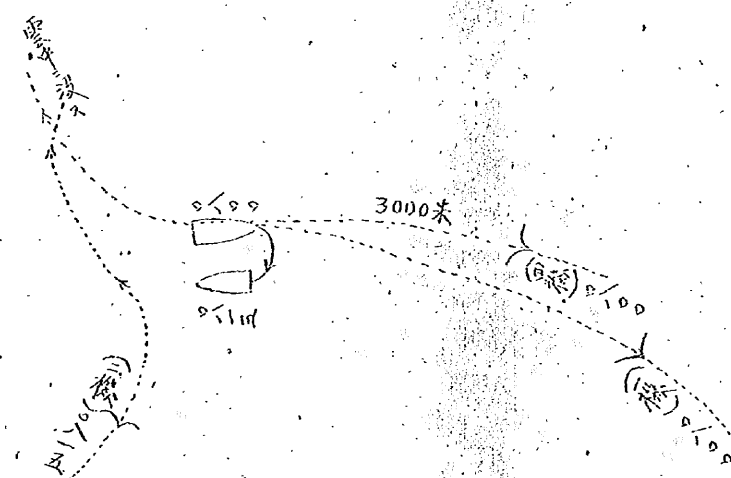
500,000



33°

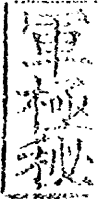
140°

33°



0480

217



横防機密第六七號ノ一ノ一九

昭和二十年二月二十五日

三月三日 日送付

5
10

横、須、賀、防、備、隊、戦、闘、詳、報、第、六、五、號

昭和二十年二月十七日 神津島沖敵艦上機攻撃 徴備船 第十一正榮丸

横、須、賀、防、備、隊

一、形勢	一	頁
二、任務	一	頁
三、經過	一	頁
四、令違報告	四	頁
五、戰果及被害	六	頁
六、戰訓	六	頁
七、合戰圖	八	頁

(目次終)

横須賀防備隊戦闘詳報第六五號

昭和二十年二月十七日

神津島沖敵艦上機攻撃

徴備船

第十一正榮丸

一 形勢

敵ハ我が要衝硫黄島上陸ト共ニ機動部隊ニ依ル本土空襲ヲ行ヒ我が航空兵力ノ減殺ヲ企圖シ一方「マリヤナ」基地ヨリ敵B 29ノ攻撃次第ニ活潑化シツツアリ

二 任務

東京灣部隊信令第六號ニ依リ昭和二十年二月五日〇七〇〇浦賀發眞鶴經由御前埼基地行糧食（人員）輸送任務終了後指令擔任海面（第三哨戒線）ニ於ケル所定ノ監視哨戒任務ニ從事中

三 經過

當隊配屬徴備船第十一正榮丸ハ東京灣部隊信令第六號ニ依リ當隊（第三哨戒線）指令海面ニ於ケル監視哨戒任務ノ爲（眞鶴及御前埼基地行人員竝ニ輸送物件搭載完了後）昭和二十年二月五日〇七〇〇浦賀出撃同日一

0322

218

四一五眞鶴着入岸後、陸揚げ鉤ニ際シ機關故障（挾脱装置）ヲ生ジ銳意之
 ガ復舊ニ努メタル結果、同月六日一二〇〇完了シ直ニ御前崎ニ向ケ發同月
 八日一一〇〇着當時該附近ハ低氣壓來襲ノ爲天候極メテ惡化シ風速十五
 米余波浪大ニシテ同地揚輸送物件荷役作業實施不能ニシテ止ムヲ得ズ同
 月十日早朝迄警泊セシモ尙海上模様ハ依然平穩ナラザルモ任務行動ノ關
 係上荷役作業^{開始}必要ヲ痛感シ機ヲ得テ之ヲ強行實施ニ當リ萬全ヲ期シツ
 ツ一六三〇迄日時ヲ要シ輸送任務ハ完了セリ天候回復ヲ待ツテ同月十一
 日〇七〇〇指令海面（哨區）ニ向ケ同地發後尋ラ監視哨戒任務ニ從事中
 ノ處同月十六日敵機動部隊ハ本土至近海面ニ出現空襲ノ算大ナル情勢ニ
 アルヲ以テ嚴重警戒ノ要アリ而シテ之ニ對處スベク神津島附近ニ接岸航
 行待避中同月十七日一二三〇神津島一一〇度約五哩ノ地點ニ於テ南方約
 三〇〇〇米ヨリ來襲セル敵戰艦機（六機編隊）ヲ認メ直ニ之ト戦闘ヲ開
 始セリ、各戰艦ハ同船ニ對シ反覆機銃掃射ヲ加ヘタルヲ以テ全員直ニ應
 戦士氣軒昂コノ敵ト交戦シ^{戦闘}一四三五迄繼續セリ此ノ間船長川添五郎ハ當
 時船橋ニ在リテ沈着冷靜少シモ動スル氣配ナク全指揮ニ任ジ同船裝備兵

艦一十号機銃各一基ノ全力發揮ニ努メタルモ敵機ノ掃射
 ニヨリ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲタリ依テ直ニ甲板長小西豊次郎ノ代理ト
 シテ操船指揮ヲ執リ十三号機銃員ハ何レモ敵ノ機中へ侵入シ又ハ
 負傷セリカガル慘烈ナル状況ノ下十三号機銃員ノ斃レルヲ見受ケラルル
 ヤ操機手池田政弘ハ既ニ彈片創ヲ受ケタルニモ拘ラズ見敵必殺ノ精神ヲ
 發揚シ猛然機銃ノ位置ニ就キ更ニ來襲セル敵機ト交戦ヲ續ケタルモ主要
 兵器タル十三号機銃ハ被彈ニ依リ使用不能トナル池田掃機手ハ掃射ニ依
 リ再度ノ負傷ヲ負ヒタルニモ拘ラズ愈獅子奮迅ノ勢ヲ以テ最後迄奮戦セ
 リ一四三二被彈ニ依リ同船積載中ノ燃料（輕油）ニ引火火災ヲ發生スル
 ト共ニ瞬時ニ他ノ燃料槽爆發シ船内中部ヨリ後方一帯大火災ニ陥リ黒煙
 濛々トシテ火勢頓ニ加リ時既ニ敵機ハ退去セシヲ以テ健全ナル船員一致
 協力シ之ガ防火ニ微力從事セルモ輕質油類等ニ對シテハ全然其ノ効ナク
 一同ハ此レ迄ト斷念シ船長室（船橋）ニ格納中ノ機密圖書及船長ノ遺骸
 ヲ收容セシトセシニ火勢ハ愈熾ニシテ船長室ニ侵入搬出ノ施ス術ナク瞬
 間ノ内ニ船橋ハ燒失シ漸次船体ハ船尾ヨリ没シ傾斜約（五〇度）沈没ニ

續セリ

新クシテ悲壯ニモ重員ハ同船最前端艙ニ退去余儀ナク船ト渾命ヲ共ニセ
ント決意セル折柄一八〇〇神津島ヨリ派出セル漁船石卸丸現場ニ來着生
存者（十名）收容セラレタルモ一八二〇頃同船ハ遂ニ沈没スルニ至レリ
本戦闘ニ於テ戰死三名行方不明二名重傷者七名
四 令達報告

日	時	元	日	宛（通報）	時	令	達	報	告	等	種別
二四一〇〇〇			二四一〇二五	第十一正榮丸		第十一正榮丸ハ五日〇七〇〇浦賀發真鶴經由御前埼 ノ輸送ニ任ジ終ラバ第三哨戒線ニ就キ對潛對空哨戒 ニ従事スベシ					信 號
二七一〇〇〇			二七一〇一三〇	第十一正榮丸		八日〇八〇〇御前埼着ノ豫定					無 線
二八一〇八二九			二八一〇八四〇	第十一正榮丸		天候悪化シツツアリ保安行動ヲトレ					無 線
二九一〇九三〇			二九一〇九四五	第十一正榮丸		風速十五米揚陸作業不能					〃

東京湾部隊指揮官 三二八一五三	下田基地指揮官 三二八一五三	第十一正榮丸遭難者十名最近便ニテ浦賀ニ歸投セシ メヨ遭難者ハ今明日中石倉丸ニテ下田着ノ豫定	線 無
新潟第二見張所長 三二八一五三	警防司令 三二八一五三	情報ニ依レバ防備隊微備船第十一正榮丸十七日神津 島ニ於テ敵艦戦艦ノ銃撃ヲ受ケ損傷ス乗組員十五名 三名戦死行方不明三名救助十名（内軍人一名）其ノ 他微備船員下田ニ向フ	線 有
神津島村長 三二八一五三	横防司令 三二八一五三	昨廿一六四〇遭難ノ三壩第十一正榮丸乗組員救助シ 石倉丸下田ニ向ヒ直ニ出帆セリ	線 有
第十一正榮丸 三二七一五三	横防司令 三二七一五三	風弱ク雨北緯三三度三〇分東經一三九度〇〇分附近 警戒中	〃
第十一正榮丸 三二五一五三	横防司令 三二五一五三	天候悪化シツツアリ北緯三二度二〇分東經一三七度 〇〇分	〃
第十一正榮丸 三二五一五三	横防司令 三二五一五三	北緯三八度五五分東經一三三度二五分	〃
第十一正榮丸 三二五一五三	横防司令 三二五一五三	北緯三三度三〇分東經一三九度〇〇分	〃
第十一正榮丸 三二五一五三	横防司令 三二五一五三	〇七〇〇哨區ニ向フ	線 無

五、戦果及被害

戦果——ナシ

被害——沈没

六、戦訓

(一) 今次敵機来襲ニ依ル被害ヲ徴スルニ當隊ニ於ケル特設監視艇(補助監視艇)ニ對シテハ敵機来襲時ハ艇メテ低空ヨリ艦橋ヲ攻撃目標トナシ掃射セラレタルヲ以テ被害極メテ大ナリ艦橋周圍ニハ速ニ防弾簍ヲ装備スルノ要アルモノト認ム

三一八一八三五 下田基地指揮官 東京灣部隊指揮官	艦防所屬徴備船第十一正榮丸(五六噸)十七日一二三〇ヨリ神津島ト三宅島ノ中間ニテ敵機六機二回ニ亘リ攻撃ヲ火災ヲ起シ重油タンク爆發沈没ニ煩ス、同日一八〇〇生存者一〇(内重傷者三輕傷者五)
	阪響——イロ丸ニ救助サレ十八日朝下田ニ入港 沈没確實ニシテ——確實ニ炎上敵手ニ渡ル虞——重傷者ハ湊海軍病院——下田ニテ治療中戦死者船長四名當作機密第一八一五—三番電ニ依リ最近使ニテ歸投セシム
	線 無

ム (二) 當隊ニ於ケル特監視艇（補助監視船）ニ在リテハ指令海面ニ於ケル監視哨戒竝ニ作戰急速任務ノ爲海洋遠ク進出シ或ハ作戰地域ニ行動セル關係上現有搭載兵器ハ概メテ劣弱ニシテ而モ急迫セル現戰勢下ニ於テ自衛上搭載兵器強化ハ絶体必要ニシテ之ガ緊急對策ノ要アルモノト認ム

（終）

139° 20'

2m

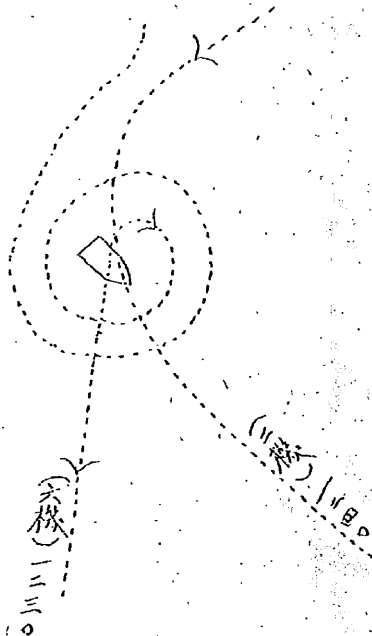
六
合

戰
圖

(海圖第五(孫卜不度))

伊豆諸島

158000



139° 20'

34°